

# 3分で読める 医療安全ニュース 9期/6号

## SpO<sub>2</sub>(動脈血酸素飽和度)と呼吸不全



当院のパルスオキシメータ、99%ですね。

JRC 蘇生ガイドラインオンライン版.日本蘇生協議会.2015  
第5章急性冠症候群 ↓



↑ Q&A パルスオキシメータハンドブック.日本呼吸器学会.2014

### ● SpO<sub>2</sub>が99%でも呼吸不全？

1. 第4回大阪府医療事故調査等支援団体連絡協議会研修会にてモデル事例が提示され、その解説で「**SpO<sub>2</sub>は99%でも呼吸不全の可能性は否定できない、呼吸数や聴診所見など気道閉塞のチェックや記録も重要なことです**」と講師からご教授いただきました。
2. モデル事例は頸部の手術で、パスでは術後管理に頸部周囲計測や、バイタルのチェックなどがあり、そのとおり実施されていました。
3. SpO<sub>2</sub>は95~98%で経過、頸部周囲径の増加はあったものの呼吸苦も軽度で、看護師は「**SpO<sub>2</sub>の低下がない場合は医師への報告は必要ない**」と考えていましたが、17時間後、術後出血による気道閉塞で心肺停止となり約1か月後にお亡くなりになったとのことでした。

### ● 日本呼吸器学会から

1. 「Q&A パルスオキシメータハンドブック(2014)」では **SpO<sub>2</sub>が正常でも低酸素状態になることや、呼吸困難を訴える場合**があることが解説されています。
2. また、ドクターコールの目安は患者の**普段の SpO<sub>2</sub>の値より3~4%低下**したときであるとか、パルスオキシメータと自動血圧計を同時使用するとき、**マンシエットより末梢側にパルスオキシメータのプローブを装着してはいけないこと、酸素吸入時では SpO<sub>2</sub>90%以上を目標とし、換気状態への留意、適宜、動脈血ガス分析を行うこと**など述べられています。
3. 再確認したい、もっと詳しく、という方は、日本呼吸器学会 HP(以下 URL)からダウンロード出来ます。

[https://www.jrs.or.jp/modules/guidelines/index.php?content\\_id=68](https://www.jrs.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=68)

### ● SpO<sub>2</sub>と並行して呼吸数の確認と記録を！

1. 「JRC 蘇生ガイドライン 2015 オンライン版」日本蘇生協議会、第5章急性冠症候群では「パルスオキシメータによる酸素飽和度の判読には注意を要し、患者や機器における不正確な結果を招く要素をできるだけ認識して修正する必要がある」とあり、上記ハンドブックでも測定に影響する生体側、機器側、プローブ事態の関連、注意事項が述べられています。
2. SpO<sub>2</sub>が同じ95%でも、低酸素状態では呼吸数を多くすることで代償しようとするので、呼吸数10回/分でのSpO<sub>2</sub>が95%と、呼吸数20回/分のSpO<sub>2</sub>が95%では全く異なる状態であるということですね。
3. SpO<sub>2</sub>は呼吸数の代替指標にはならず、呼吸状態の確認はモニターではなく直接患者から計測すべきである、との報告もあります。

職員の皆様へ：お読みにになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。